

3 所感

外部評価ヒアリングを通して、各委員が感じた評価すべき点、改善すべき点を掲載しました。

(敬称略)

	氏名	職業	掲載ページ数
委員長	佐藤 徹	高崎経済大学 大学院 地域政策研究科 教授	50
副委員長	長野 基	首都大学東京 都市環境学部 建築都市コース 大学院 都市環境科学研究科 都市システム科学域 准教授	50
委員	引地 智宏	有限会社 竹野 戸田の渡し 代表取締役	51
委員	澁谷 久美子	戸田市食生活改善推進員会会長	51
委員	地崎 由美子	-	52
委員	西澤 和良	-	52

平成27年度外部評価所感

● 委員長 佐藤 徹

・ 評価すべき点

- ・ 今回外部評価の対象となったすべての施策において、所管部局は真摯な態度で臨んでいた。
- ・ 外部評価委員会における事務局（経営企画課）の対応も誠実かつ迅速であった。

・ 改善すべき点

- ・ CHECKからACTIONへつながっていない評価書が見られる。指標データの推移や目標達成状況などから問題を洗い出し、要因分析を行った上で、課題設定を行うべきである。
- ・ 外部評価の項目の中には、定義が少しあいまいである等の理由により、評価しづらいものがある。より明瞭にすべき。
- ・ 内部評価のPDCAサイクルと外部評価のPDCAサイクルを有機的に連携させたマネジメントサイクルを確立すべき。

● 副委員長 長野 基

・ 評価すべき点

○複数の評価対象事業において当該所管課が実施する調査からの知見をもとに行った取り組み、とくに改善の取り組みが報告されました。「エビデンスに基づく改善」が行われていることは施策運営においてとても重要なことと考えます。

・ 改善すべき点

○ただ、残念なことに、そうした「エビデンスに基づく改善」が総合計画上に設定された施策単位でのPDCAサイクルにどのように結びついているのか、そして、それがアカウンタビリティの点でどのように評価表上で可視化されているのか、という点においては必ずしも明確に述べられてはいないようです。

○行政評価制度の取り組み全体でみた場合、戸田市の評価方法では評価委員が次年度の資源投入量の増加・削減を判定・提言する方法が採用されています。この点、今年度の検討からは、①補修修繕などの複数年度での事業計画上での資金投入のサイクルと、②単年度でみる評価・判定のサイクルが衝突してしまい、結果として、から「次年度は予算を増加すること」、つまり、②の点でどのような問題点があろうとも、①の論理を優先せざるを得ないという事業が複数ありました。この部分は整理が必要であると考えます。

○加えて、次年度の資源投入量の方向性を判定するうえでは、当該施策が前提としている「政策価値判断」の是非を再検討する必要があると思われます。しかし、現在の方式ではそれを共有する段取りがありません。たとえば、どこまで減免措置をするのか、言い換えれば、所得の再分配をどこまで行うのか、などが関係する問題となります。評価委員会に何をどこまで求めるのか、という制度設計哲学の問題にもなりますが、今後も、評価委員に対して資源投入の方向性を問う方法が採用される場合は、このような価値観の明示化手順も求められると考えます。

● 委 員 引地 智宏

・評価すべき点

平成25年度より3期にわたり外部評価委員会に参加させていただき、戸田市が今後直面する高齢化に対する危機意識の共有。様々な市民サービスの向上に日々変革を行っており市長を中心に「全部局が一丸」となっている姿勢が感じ取れました。昨年策定されました「自治基本条例」の実践、実行により今後は「戸田市民一丸」となる自治が行われていくことを祈念いたしております。

・改善すべき点

各部局によって温度差が感じられる。懸命に今ある資源を十二分に活かした、各担当者の思いや情熱によって導き出される「知恵」が活かされている部局はたとえ評価基準の数値に達していなくても高い評価をするべきと個人的には感じられました。どの部局も「時間」は共通な資産でありその「時間」という資産を生かすことが出来れば「知恵」が生まれてくると思います。

また、その「時間」という資源を活かし切っていない部局も存在しておりました。今後直面する超高齢化社会を乗り切り、今の戸田市を実りある街に永続的に次世代に継承していくそんな「礎」を今、正に行政、市民が一体となり策を講じていく事が急務であると感じます。

● 委 員 澁谷 久美子

・評価すべき点

市民活動団体関係者として、この度は外部評価委員会に参加させていただきました。お礼を申し上げます。

また、対象施策に携わる中心となる課よりの確な回答をいただくことができましたことは有意義でした。事前質問回答によりヒアリングがスムーズに進行されたように思います。

・改善すべき点

外部評価シートのなかで「判断の理由」は改めてどの部分を基準にしたら良いか迷う所がありました。限られた時間内でのヒアリングでしたので質問にとまどいも

ありました。市民からの視点で意見を伝え、直面している課題を少しずつでも目標に近づけて市民の住みよい環境になることを願います。

● 委 員 地崎 由美子

・ 評価すべき点

外部評価委員をさせていただくにつき、経営企画の方から丁寧に説明していただけたり時間の猶予もいただけたので、なかなか慣れない文書の読みとりや、評価するにしても余裕をもって取り組むことができました。

今回ヒアリングさせて頂いたことにより、広報を見る時に、より興味をもって読むようになりまし、視点が変わったと思います。情報は今までたくさんあったけれど、興味をもって見ていなかった事柄に気づけたことが良かった。

・ 改善すべき点

施策を選ぶときに名称のみで選択したわけですが、1つの施策に関連する幾つかの他の施策があり、1つだけでは評価しづらいものがあった。単独でわかりやすいものとわかりにくいもの、選ぶときにもう少し説明、ご指導が欲しかった。関連するものが必要な場合は、それも含めて評価（ヒアリング）の対象としていただいたら良かったと思う。

● 委 員 西澤 和良

・ 評価すべき点

今年度は、福祉、医療、学校に関するものが、重要な観点でヒアリングの熟考がなされ、細部の事柄まで余地なく積極的に取り組んでいる感じがしました。準備が万全で資料も豊富で「学ぶ」ことができました。

・ 改善すべき点

初めてのヒアリングで自分自身の質問をどうするべきか迷い、効率よく質問できず反省します。

市民代表として、もっともっと質問をして、具体的に役割の定義付けをしたいとします。試行錯誤をして、少しでも役割を充実させたいです。